

第151回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成23年9月)

2011.9.29

株式会社 岩手朝日テレビ

第151回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成 23年 9月 29日 (木) 11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ 3階 会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 6名

委員長	増子 義孝
副委員長	村田 久
委員	小田島 利昭
委員	笠川 さゆり
委員	そのだ つくし
委員	田口 幸雄

欠席委員数 1名

委員	弭間 俊則
----	-------

会社側出席者名

代表取締役社長	富永 健治
専務取締役	辻 一成
取締役	小林 直紀
取締役	長生 正広
報道制作局長	佐々木 貴
報道制作局部長	鈴木 敦
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	落合 成範
番組審議会事務局	佐藤 清一

4. 議 題

(1) 合評番組

「つながろう いわて」

(2) 10月単発番組及び9月の視聴率について

(3) 次回審議会

開 催 日：平成23年10月26日(木) 11時～

岩手朝日テレビ 3階 会議室

合評課題：「“十五歳”の原点～啄木・尾崎空を求めた天才詩人」

放送日時 平成23年10月25日(火) 19:00～19:54

5. 概 要

- ※ 社長より、大船渡支局の新設は震災報道の強化のためと説明。来年3月31日アナログ放送は完全終了となる。11,817世帯の難視聴世帯があるが、年内をメドに完了するよう努力している。
- ※ 落合事務局長より10月の単発番組と9月の視聴率について説明した。
- ※ 震災を一過性のものと思わず、長期的に取り組んで報道しているのは良いことだ。
- ※ 被災地岩手県、宮城県、福島県の良いところを全国的に報道してほしい。
- ※ お盆のお祭りシーンは、より詳しく放送して欲しかった。
- ※ 冒頭のシーンは、衝撃的。タイトルからすれば、このような始まり方がふさわしいのか疑問である。
- ※ 企業や教育現場で防災について1時間の中で飽きることなく見ることができたのではないか。
- ※ 特定の企業のみを取りあげるのではなく、複数社取りあげるべき。
- ※ 全体的に復興が順調であるかのような内容に仕上がっている。本当にそうなのか。もう少し街づくりの問題点を取り上げて良かった。
- ※ ボランティアのかたがどのようなお手伝いをしているか、不足している地域は何処か、報道してほしい。

1本が残り希望の象徴にもなりました。高田の一本松は半年後どのようになっているのか。震災に伴う津波の被害は甚大でした。この地で再びかつての暮らしを取り戻したいと願う人々の奮闘の様子を半年間追いました。

10月8日は楽茶間にかわり、「いいコト！」の放送が毎週土曜日朝9時30分からスタートいたします。ぜひご覧ください。

15日11時15分からIAT開局15周年特番「故郷に生きる」津波ですべてを失った、陸前高田市の醤油製造会社、八木澤商店9代目社長河野通洋氏はリストラもせず、経営の続行を決断しました。生き抜くために闘う八木澤商店さんの半年の記録から、完全に復興できるその日を迎えるために大切なものは何かを放送いたします。また25日19時からは次回の番組審議会の合評番組でもあります、「十五歳の原点～啄木・尾崎空を求めた天才詩人」の放送を予定しております。どうぞご覧ください。

では視聴率にうつります。9月の視聴率は、全日7.2%で4位、ゴールデン11.4%で4位、プライム11.7%で4位プライム2は7.4%で1位でした。

増子委員長

ありがとうございました。何かご質問などございませんか。なければ合評課題に移ります。

笠川委員

テーマである「つながろう いわて」震災の特別番組として各局いろいろな視点から放送されていますね。この番組は、始まりに津波のシーンから始まり、画像を見て中にはショックな方もおられるかもしれません。その気持ちを考えると少しがっかりしたのが心境です。

大槌で震災が起きた同じ時刻14時46分から生放送で放送していましたね。八木澤商店さんのお話しで復興という話をしていました震災でも誰一人辞めることなく仕事を続けて、年配の方が忙しいことは良いこととお話ししてありました。

復興につながっていると理解できました。

3つの学校が1つになったシーンがありました。小学生が不安な気持ちの中、スタートした学校生活でしたが後半には子供たちの笑顔が映しだされて笑顔のシーンがいっぱいあって良かったと思いました。

甚大な被害だった津波の日からここまで復興されたことが良くわかりました。しかし、津波のシーンと復興のシーンのギャップが大きく、内容的に欲張りすぎたのではないのでしょうか。復興を中心とした作りだったらもっと良い作品になっていた

と思いますね。

今回の震災を一過性のものと思わず、長期的に取り組んで報道しているのは良いことだと思います。被災地、岩手・宮城・福島の良いところをもっともっと全国的にひろげてほしいと思います。

笠川委員

各局で各地の津波の様子を震災当初から1か月後、2か月後というように順を追って映像で変化していく様子がわかるように流して欲しいと思いました。

企業や教育現場で防災について1時間の中で飽きることなく見ることができました。被災企業については、八木澤商店さんの頑張っているところばかりではなく、他の企業も取り上げて欲しかったと思います。

3校合同の学び舎、子供たちの様子、もう少し時間枠を広げて放送して欲しかったと思います。このようなシーンは希望が持てるシーンですので、もう少し掘り下げて放送してください。

そのだ委員

全体的に音楽と場面の組み合わせが良かったという印象です。エンディングの局はありきたりでしたが涙が出ました。

最初ハードな映像から始まり、アンケートはわかりきった内容でしたね。

お盆のお祭りのシーンはもう少し詳しく放送して欲しかったです。子供は元気を取り戻しています。

逆に親のほうが一歩になっているのが現状です。大人のほうが一歩を戻して使って大変だと思います。

田口委員

始まりは苦しいシーン、衝撃的でした。タイトルから考えればこのような始まり方がふさわしいのか疑問でした。

空からの映像、断片的な映像見たことがない映像もありましたね。八木澤商店さんは取り上げられる回数が多いのでほかの企業を取材することはできなかったのでしょうか。

3校合同のシーンには私も希望が持てました。地震発生の時刻に合わせて生放送されていました。過去に決別して未来へ向かってというシーンでしたが、タイトルとはかけ離れていたように思います。全体としてタイトルが内容と焦点があってなく、音楽は鎮魂、アメージンググレース、この番組は泣けるイメージで終わらせてよかったのでしょうか。甚大な被害をもたらせ、気持ちが塞がっている状況の下、むしろ明るいイメージで終わらせるほうが良かったのではないでし

ようか。

村田副委員長

「つながろう いわて」という題名でしたが、タイトルは十分気をつけてつけないとダメです。

大津波が押し寄せる冒頭の映像、そして復興に向ける人々の最後のシーン、メリハリのある映像で締めくくりは良かったと思います。全体的に復興が順調である内容に仕上がっていますが、本当にそうなのでしょうか。もう少し町づくり等の問題点を取り上げて良かったと思います。

空から見た被災地、大槌町の合同法要、新町長のインタビュー被災会社・八木澤商店、3校合同の学び舎、これからの防災を考える。内容の構成は5分野になっているが、被災地住民の今抱えている本音の音が薄い気がしました。例えば、空から見た養殖の風景を見ると、養殖業の明るい未来が見える思いですが、本当にそうなのでしょうか。養殖業者の生の声が聞きたかったですね。また、新しい町づくりに被災地の住民の音が反映しているのでしょうか。

仮設住宅に入居している人々の思いはどうなのでしょう。職を失った人々はどうなのでしょう。

そのような現状での生の声を入れるべきだったと思います。

増子委員長

発生当時の映像、空からの映像、当時と今ではこんなに違うというところを映して欲しかったですね。

全体的に9月11日、発生から半年が経ち、このような作り方しかできなかつたのでしょうか。今の被災者がこれを見て町長が明日からの暮らしどうすればよいか。とお話しされていましたが、国の方針も決まっていない現在、被災者はずっと我慢をしてギリギリまできていると思うのです。

仕事がない人はこれからどうするのでしょうか。元の暮らしになんて戻れないのが現状です。これから先が問題なのですよ。全国レベルの番組でたとえば報道ステーションやニュースなどでも取り上げるべき問題だと思うのです。

復興、復旧と言いながら被災者の方々は大変な思いをしているのです。そこを論点にしてこれからも考えた番組を制作して欲しいと思います。

笠川委員

義援金などはどのように使われているのでしょうか。報道されないので全くわかりません。その点を報道しているのをほかの局でも見たことがありません。マスコミで取り上げて

